

あかちゃんとしょかん

事業分野	子どもの健全育成		協働の形態	事業協力			
実施主体	行政	教育部図書館					
	協働相手	あかちゃんとしょかんボランティアあつぷつぷ					
	(内訳)	市民	地域コミュ	活動団体	NPO法人等	事業者	教育機関
		一人	一団体	1団体	一団体	一者	一校
実施期間	平成 30 年度から継続		過去 3 年間 平均予算額	貸出券、申請書、読書手帳、謝金、消耗品（105,324 円）			
協働のゴール	絵本の読み聞かせを通じて、子育てを支援する。						
ポイント	すべての赤ちゃんとその保護者を対象に、絵本を通してあたたかな心のふれあいの時間をもつきっかけを作り、その後の図書館利用へとつなげる事業です。 ※NPO ブックスタート事業とは異なり、絵本のプレゼントはしていません。						
協働に至る経緯と背景							
子育てネットワーカーが保健師より依頼を受けて、3 か月健診時に図書館の本を毎回持参して、赤ちゃん絵本の話をしていました。一時事業が中断されたのちに、図書館とボランティア、保健師で話し合いを重ね、他市町村への視察、ボランティア団体の立ち上げをし、現在の協働事業が始まりました。							
事業内容と行政・協働相手それぞれの事業への関与の仕方							
保健センターでの 3 か月児健康診査の機会を活用し、読み聞かせの大切さを伝え、実演するとともに、読み聞かせに役立つ「読書手帳」を配布しています。また、赤ちゃんの貸出券の発行、絵本の紹介、貸出をします。							
行政：貸出券の発行、赤ちゃん絵本の貸出、運営体制の整備などをする。							
協働相手：子育ての中での読み聞かせの意義を説明し、読み聞かせを実演する。また読み聞かせ会等の情報提供を行う。							

協働相手からの意見・評価

- ・あかちゃんとしょかんへの参加者が後に図書館へ来館し、読み聞かせ会に参加する姿がみられるので、うれしいと同時に、読書や子育て支援としてサポートできていると感じる。
- ・赤ちゃんと保護者が、絵本を通じて笑顔になる姿を見ると、幸せな気持ちになります。
- ・市の予算を確保して、生まれたすべての赤ちゃんと保護者に、絵本を手渡すことを希望します。
- ・あかちゃんとしょかんへの参加は任意なので、すべての赤ちゃんと保護者を応援できていない状況です。健診のプログラムの中に、「絵本のはなし」を組み込んでもらいたい。（保健師より、難しいとの返答あり）

受益者からの意見・評価

- ・あたたかい言葉で声をかけてくださるし、読み聞かせや絵本、図書館についての情報を得ることができて参加してよかった。
- ・健診時に貸出券を作ってもらえ、本を借りることもできたので、図書館へ行くきっかけができた。
- ・なかなか図書館には行けませんが、健診時に借りた本はブックポストに返却できると説明を受けたので、借りて読んであげたいと思った。
- ・すでに絵本をもっているが、読んだことのない絵本も何冊か紹介してもらったので、借りてみることにした。

協働して良かった点や成果、及び今後の課題・展望

乳児を連れた利用者、乳児対象の行事の参加者数が共に増加傾向にある。今後は定期的に養成講座を開催するなど、ボランティアの増員を図り、運営体制を整え、事業の充実を図りたい。

活動の様子（写真、チラシ等）



委員会総括評価

・早い段階での子育て支援のアウトリーチが重要であるとの認識のもと、読み聞かせだけでなく、月齢・年齢に応じた絵本の紹介、図書館の子連れでの利用案内、地域の子育て支援制度の利用啓発など、必要な情報を提供し、親子に寄り添った支援を展開することで受益者の満足度の高い事業です。

・特に受診率の高い3か月児健診時を絶好の機会ととらえ、健診関係部署と一定の連携を図り事業を実施している点や、読み聞かせをする市民活動団体の担い手を確保する仕組みが確立され、継続的に協働事業として展開している点で評価できる事業です。

助言・提言

①行政内の連携・協働の推進

・事業の意義や目標、重要性について、関係課（子ども育成課、子育て相談課、学校教育課、生涯学習課）と共有し、相互理解を深めていくことができると、行政内の協働が進み、子育て支援の初動における包括的な取組として、より親子のニーズに沿った展開が期待できるのではないのでしょうか。

②事業の継続実施のための協働の環境づくり

・今後とも継続的に事業を実施されるため、協働相手の市民活動団体と協働のゴールについて再度、理解を深めるとともに、ボランティアにしわ寄せがいくことのないよう、関係課との橋渡しや相応の予算措置など、持続可能な環境づくりを検討してみたいかがでしょうか。